

| No. | 補助金交付団体 | 事業の内容 (要約) |
|-----|-------------------------------------|--|
| 1 | ざぶん賞中国四国地区実行委員会 委員長 岩崎正朔 | 水の環境を守ることの大切さを考えてもらうため、小中学生を対象に、水に関わる身近なことから環境問題や安全、生命などのテーマで創作文(作文、童話、詩、手紙など)を公募(全国)しているが、これに呼応して県内の小中学校を訪問し、創作文の応募依頼を行う。また、県内の小中学生の優秀作品を表彰するとともに、全国大会の優秀作品の展示、講演会(ざぶん塾)、演奏会(ざぶん奏)を高松市において開催することにより、一般の参加者に各「水」、「環境」等の大切さを喚起する。 |
| 2 | 大野豆プロジェクト 会長 二川 幹生 | “地産地消”活動推進用の「のぼり」とパンフレットを作製し、郷土料理教室、文化祭、料理コンテスト等イベントを開催し、“地産地消”の循環型社会形成への効果を地域住民全体に紹介し、地産地消の環境保全上のメリットを周知する。さらに、今年度“地産地消”活動推進用の「のぼり」とパンフレットを作製し、各イベントで使用・配布する、“地産地消”講演会を開催することで“地産地消”意識の高揚を図る。 また、収穫したそら豆の茎や枝、公園清掃時に発生する雑草、刈取り芝の堆肥化、地域住民からのコンポスト堆肥の購入活動を継続して行う。 |
| 3 | 栗林校区コミュニティ協議会 会長 松下 保 | 特別名勝栗林公園を訪れる観光客は年々増加し、年間60万人を数える。特に急増している外国からの来園者をさらに気持ちよくお出迎えするため、地域住民が一丸となって、栗林公園とその周辺の清掃活動を行う。同時に、来園者への啓発グッズの配布を行い、環境美化意識の高揚を図る。また、公園前地下歩道に、地域の児童・園児と、高齢者等によるアート作品を掲示し、栗林公園のプロムナードにふさわしい明るい地下歩道を実現するとともに、事業への参加者増加を地域全体へ広く求めるきっかけとする。 |
| 4 | 善通寺こどもエコクラブ 代表 井上 修 | ESD(世界の人々や、地球上の生き物、そしてこれから先の未来のことも考えて、みんなが幸せに暮らしていける地球にするために、私たち一人ひとりが気づき、主体となることができることを考え、行動するための学び)の推進と、子どものための「持続可能な開発目標」を行動計画に入れ、実施する団体への周知とPR活動を行っている。今年度は、香川ESDまつり実行委員会を立ち上げ、20団体の参加と交流を目的にESDまつりを開催する。昨年度も同様のイベントを行い、1,000名もの方に参加いただいた。 |
| 5 | 特定非営利活動法人こにふあくらぶ 理事長 津久井 進 | 手入れがされていない民有林(2箇所)について、間伐及び枝打ちを行うことにより、残された木々を幹が太く健全な木に育て、二酸化炭素の吸収・固定量を増加させる。さらに、得られた間伐材を有効的に利活用していく(化石燃料の代替)ことで温暖化防止に貢献する。また、間伐することで残された木々は、大きく成長し根が強く張り、地すべり等自然災害の防止にもつながる。 枝打ち作業及び除伐作業は昨年度完了したため、今年度は間伐及び間伐材搬出作業を中心に行う予定となっている。 |
| 6 | 高松西カッパ友の会 代表 古井 聡子 | 地球温暖化防止活動をテーマにした幼児にもわかるストーリー(食べ物を好き嫌いせず残さず食べる、子供でもできるCOOL CHOICEの紹介:約30分)の等身大の人形劇を、クールちょいん寺が運営する幼稚園、保育所(4ヶ所程度)で公演することにより、幼い頃から地球温暖化防止の意識を持ってもらう。 |
| 7 | Gomyo倶楽部 代表 大内 正伸 | 東かがわ市五名地区の希少生物がすむ棚田・ため池での御田植え祭や草刈り、稲刈りまでをボランティアと共に行うほか、周辺の雑木林やため池の観察会を行う。参加者とは自作した石窯等でドジョウ汁やピザなどの野外調理も行き、交流を深める予定。さらに、外部講師を呼んで、学習会・ワークショップを開催することで、大地再生の手法を習得し、五名地区を会場にその手法を実践してもらうのを目的としている。 |
| 8 | 一般社団法人 香川県産業廃棄物協会 会長 松本 英高 | 四国88ヵ所遍路道の清掃活動を地元住民(ボランティア団体を含む)とともに実施し、住民に対して環境保全の重要性をアピールし、環境美化意識を高める。 概ね急峻な場所にあり、不法投棄のゴミも多く、大型のものが多く四国霊場の山間部の遍路道を、専門重機(クレーン車、ダンプ車等)を保有している協会員企業と地元住民が協働して清掃活動を行う。 |
| 9 | 香川大学学生ESDプロジェクト「SteeP」 代表 三重野 楓樹 | 食べられるのに捨てられてしまう食材「食品ロス」の量を減らすべく、2年前からスーパーにて廃棄される食材を使って料理をする「ともにキッチン」を開催している。料理だけではなく、全国から大量の食品ロスが出ていること、「cool choice」に賛同してもらい、自身も無関係ではないと自覚していただくことで、参加者の意識を変え、家庭からの食品ロス削減を目指す。 |

| No. | 補助金交付団体 | 事業の内容（要約） |
|-----|---------------------------------------|---|
| 10 | 公益財団法人オイスカ四国支部 会長 泉 雅文 | 松くい虫による荒廃や山火事が原因で消失したまんのう町尾の瀬山にヤマザクラを植林して、憩いの森の再生と環境保全を図っている。今年度は下草刈りを継続実施する予定。また、綾歌郡綾川町陶地区にある竹林の整備も行い、整備時に出た間伐竹は粉碎して有機農家へ提供する。 |
| 11 | 3万4000人のキャンドルナイトin小豆島実行委員会 会長 黒島 啓 | 小豆島88カ所霊場が出たろうそくから手作りのろうそくを各種団体や住民有志のボランティアと制作し、島内のさまざまな箇所（今回は茸田八幡神社）に設置するなどして、その灯りを楽しみながら、環境保全について考えてもらう機会とする。さらに今回は、伝統産業である石材加工で排出される端材や醤油・佃煮製造で使用された樽などからモニュメントやオブジェをつくることで、伝統産業から出る廃材の再活用を発信していく。 |
| 12 | 有明浜の海浜植物を観察する会 会長 小西 武利 | 観音寺市の有明浜は、スナビキソウやハマウツボ、ウンランなど他の海岸には観られない貴重な数多くの海浜植物が砂浜一面に広がっている。その希少生物スナビキソウの保護に努めると共に、渡り蝶アサギマダラを呼び込み、アサギマダラの飛来する街にすることを目指している。今年度も、出前授業や定期講演会を開催したり、フジバカマを植えていく。 |
| 13 | 香川ベンチの会 代表 田中 政晴 | 過疎により放置竹林が問題となる中で、丸亀市本島で放置竹林の現状を調査し、竹を有効活用することで地球温暖化問題や自然との共生につながるヒントを探る場や実践の機会を提供する。竹を有効活用している先進地（塩江町）の視察や講師を招いての勉強会をとおして技術を磨き、ボランティアを募って、本島にて休憩用の竹ベンチの制作体験「本島で竹のベンチをつくらう！」というイベントを開催予定。 |
| 14 | 香川大学小豆島SAKATEプロジェクト 代表 田中 隆太郎 | 小豆島坂手地区で、以前栽培されていた「徳本あんず」という在来種のある。地域資源である徳本あんずをシンボルツリーとして活用し、地域の人たちと協力しながら、地域の人たちに段ボールコンポストを作成してもらい、徳本あんずの拡大、管理を行う。 |
| 15 | 特定非営利活動法人どんぐりネットワーク 理事会長 小林 剛 | 全国的に里山の森林が使われなくなってきた中、里山林に大径木が増えており、これがナラ枯れの一因であると指摘されている。そこで、香川県の里山林を代表する高松市西植田町のドングリランド内の里山林の調査を行い、香川県の里山林の現状を把握する。樹種の同定と里山林の植生・現存量調査に大学生や一般ボランティアにも協力してもらい、調査技術の習得や里山林の現状に対する理解促進・普及啓発、森林保全・整備活動への興味関心も持ってもらう場とする。 |
| 16 | うどんまるごと循環コンソーシアム 会長 角田 富雄 | うどんの食品残渣からバイオガスを作る実験を体験するエコツアーや食品ロスに係る講演会を開催する（各1回）。また、小麦の栽培から製粉、うどん作り、さらには廃棄された食品がエネルギーになることを、小学生を中心にした、一般市民を対象に出前授業を実施し、楽しみながら環境学習を行う。イベントやエコツアーを開催し、一般市民・学生等への環境教育を通じて、地球温暖化防止や循環型社会の形成など、環境保全への意識向上を図るとしている。 |